



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月5日

上場取引所 東

上場会社名 キョーリン製薬ホールディングス株式会社
コード番号 4569 URL <http://www.kyorin-gr.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山下 正弘

問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 (氏名) 伊藤 洋
グループ経理財務統轄部長 TEL 03-3525-4701

四半期報告書提出予定日 平成25年11月14日 配当支払開始予定日 平成25年12月5日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家等向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	50,851	6.0	6,213	△0.9	6,531	△1.2	4,397	2.4
25年3月期第2四半期	47,954	3.4	6,269	27.9	6,609	25.8	4,295	28.0

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 3,989百万円 (△13.6%) 25年3月期第2四半期 4,618百万円 (27.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	58.85	—
25年3月期第2四半期	57.49	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第2四半期	155,840	130,098	83.5
25年3月期	154,968	129,099	83.3

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 130,098百万円 25年3月期 129,099百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	10.00	—	40.00	50.00
26年3月期	—	10.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	42.00	52.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	112,600	5.2	18,200	1.4	18,800	0.7	12,400	△0.2	165.96

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	74,947,628 株	25年3月期	74,947,628 株
26年3月期2Q	231,586 株	25年3月期	231,213 株
26年3月期2Q	74,716,170 株	25年3月期2Q	74,718,285 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(業績予想に関する記述等についてのご注意)

1. 本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績等は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

2. 平成25年5月9日に公表いたしました平成26年3月期の連結業績予想のうち、通期について本資料において修正しております。詳細は、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

また、平成26年3月期の個別業績予想のうち、通期について本日(平成25年11月5日)付けで修正しておりますので、別途公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

平成25年11月6日(水)に機関投資家・アナリスト向けに決算説明会を開催する予定です。

説明会で配布した資料及び決算補足説明資料等については、当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における国内医薬品業界は、継続的に実施される薬剤費の抑制を目的とした諸施策等の影響もあり企業間の競争は激化しました。ヘルスケア事業では、個人消費の上昇による景気の持ち直しの動きもあるものの市場における事業環境は厳しい状況が継続しました。

このような状況下、当社グループは中期経営計画「HOPE100ステージ1ー（平成22年度～平成27年度）」の4年目として、事業戦略である「ファーマ・コンプレックス・モデル（PCモデル）への取り組み促進」「ヘルスケア新規事業の育成と更なる拡充」に積極的に取り組み、持続成長とステークホルダーの皆様からの支持・評価の向上に努めました。

売上面では、医薬品事業における売上は新薬事業、後発品事業ともに前年度を上回る実績となり、売上高は508億51百万円と前年同期に対し28億97百万円（前年同期比6.0%増）の増収となりました。

利益面では、売上原価率は前年に対してほぼ横ばいで推移したため、増収により売上総利益は前年同期に対して18億93百万円増となりました。他方、販売費及び一般管理費は研究開発費の増加、一般経費の増加等により前年同期に対し19億49百万円増加したため、営業利益は62億13百万円（前年同期比0.9%減）と減益となりました。経常利益は65億31百万円（前年同期比1.2%減）、当四半期純利益は43億97百万円（前年同期比2.4%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間の業績

売上高	508億51百万円	（前年同期比	6.0%増）
営業利益	62億13百万円	（前年同期比	0.9%減）
経常利益	65億31百万円	（前年同期比	1.2%減）
当四半期純利益	43億97百万円	（前年同期比	2.4%増）

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①医薬品事業

〔国内新医薬品〕

呼吸器科・耳鼻科・泌尿器科を中心とする特定領域の医師、医療機関に営業活動を重点化するフランチャイズカスタマー（FC）戦略の推進と更なる強化等により、主力製品の普及の最大化に努めた結果、既存の医薬品事業の売上が前年を上回る実績となりました。また平成24年10月より事業を開始したキョーリン製薬グループ工場(株)の売上も寄与し、売上高は416億97百万円（前年同期比7.9%増）となりました。主力製品では、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」、過活動膀胱治療剤「ウリトス」、潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「ペンタサ」が前年を上回る実績で推移しました。

〔海外新医薬品〕

広範囲抗菌点眼剤「ガチフロキサシン（導出先：米国アラガン社）」に関連する収入が前年を上回り、売上高は11億60百万円（前年同期比13.5%増）となりました。

〔後発医薬品〕

後発医薬品の使用促進策等により保険調剤薬局への売上が増加し、売上高は51億84百万円（前年同期比2.5%増）となりました。

〔一般用医薬品他〕

主要製品の売上はほぼ横ばいで推移したものの、その他売上が減少し全体としては実績が前年を下回り、売上高は19億97百万円（前年同期比12.9%減）となりました。

この結果、当セグメントの売上高は500億40百万円（前年同期比6.4%増）となり、営業利益は58億68百万円（前年同期比7.4%減）となりました。

②ヘルスケア事業

〔スキンケア〕

ナノカプセル技術を応用したスキンケア製品を取り扱うドクタープログラム(株)では、販路を通信販売に集中したため、売上は前年を下回る実績となりましたが、利益面は改善傾向が見られました。この結果、当セグメントの売上高は8億10百万円（前年同期比11.9%減）、営業利益は1億06百万円（前年同期は1億41百万円の営業損失）と減収・増益になりました。

当社グループの中核事業における研究開発の状況は、以下のとおりです。

当社グループでは、世界の人々の健康に貢献できる新薬の創製と提供が新薬メーカーの存在意義を高め、持続成長に結びつくとの認識に基づき、自社新薬創製、導入品の開発、既存品のライフサイクルマネジメント（新効能・効果取得、剤型追加）により特定領域における魅力ある製品パイプラインの構築を推進しています。中核子会社である杏林製薬(株)は、現在、創薬研究所及び開発研究所（栃木県下都賀郡野木町）、ActivX社（米国）で新薬創製に取り組んでいますが、新たな研究開発施設を建設し、日本国内の2つの研究開発拠点を集約することにいたしました。研究開発機能を一箇所に集約することで、企業の総合力を最大限に発揮できる研究開発体制を構築し、喫緊の課題であるオリジナル新薬の創製を強化してまいります（詳細は、平成25年7月4日公表のプレスリリースをご覧ください）。

当第2四半期連結累計期間における国内開発の状況としましては、新剤型として潰瘍性大腸炎治療剤「ペンタサ坐剤」を平成25年6月に新発売しました。次に、慢性閉塞性肺疾患治療薬（配合剤）「KRP-AB1102F」のPhⅢ臨床試験を同8月より、ニューキノロン系合成抗菌剤「KRP-AM1977X」のPhⅡ臨床試験を同9月よりそれぞれ開始し、喘息治療配合剤「フルティフォーム」については製造販売承認を同9月に取得しました。また、重点領域である泌尿器科領域の開発パイプラインの強化に向けて、過活動膀胱治療薬「KRP-EPA605」のPhⅠ臨床試験をキッセイ薬品工業㈱と共同で同10月より開始いたしました（詳細は、平成25年10月17日公表のプレスリリースをご覧ください）。

自社新薬創薬活動では、研究領域を呼吸器・泌尿器・感染症に重点化し、効率的かつ効果的な新薬の創製に努めました。その結果、当社グループ全体の研究開発費は前年同期に対して12億27百万円増加し、61億19百万円（前年同期比25.1%増）となりました。

生産部門では、中期経営計画「HOPE100ステージ1ー」における重点課題として、「高品質の製品を安定的に低コストで供給する生産体制の確立」を掲げており、平成24年10月より事業を開始したキョーリン製薬グループ工場も含めて、新生産体制の構築（グループ内での全体最適化及びローコストオペレーション等）を進め、今後とも高品質の製品の安定的な供給に努めます。

（2）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産は、流動資産が現金及び預金、商品及び製品の増加、受取手形及び売掛金の減少等により34億00百万円増加し、固定資産が有形固定資産、投資有価証券の減少等により25億28百万円減少したため、前連結会計年度末と比較して8億72百万円増加し、1,558億40百万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金の増加、未払法人税等、退職給付引当金の減少等により、前連結会計年度末と比較して1億26百万円減少し、257億41百万円となりました。

純資産は、利益剰余金の増加等により、前連結会計年度末と比較して9億99百万円増加し、1,300億98百万円となりました。

この結果、自己資本比率は83.5%となり、前連結会計年度末より0.2ポイント上昇いたしました。

②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、163億32百万円の収入であり、これは主に税金等調整前四半期純利益65億84百万円、減価償却費14億60百万円、売上債権の減少110億15百万円、たな卸資産の増加21億74百万円、仕入債務の増加20億56百万円、法人税等の支払33億27百万円によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、1億59百万円の支出で、これは主に有価証券の取得による支出42億97百万円、有価証券の売却及び償還による収入30億00百万円、有形固定資産の取得による支出9億75百万円、投資有価証券の取得による支出24億66百万円、投資有価証券の売却及び償還による収入39億08百万円によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、28億27百万円の支出で、これは主に短期借入金の増加4億00百万円、配当金の支払29億86百万円によるものです。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比較して134億42百万円増加し、359億85百万円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間までの業績の状況を勘案し、平成25年5月9日に公表しました（通期）連結業績予想を下記のとおり修正いたしました。

売上高	1,126億円（前年同期比	5.2%増）
営業利益	182億円（前年同期比	1.4%増）
経常利益	188億円（前年同期比	0.7%増）
当期純利益	124億円（前年同期比	0.2%減）

なお、海外売上における為替レートは1US\$102円、1€129円を想定し、計算しています。

売上高は、医薬品事業（新医薬品、一般用医薬品他）が前回予想を下回る見込みであることから4億円減額し、1,126億円に下方修正いたしました。また主に今年度、発売（予定含む）の新製品及び為替（円安）の影響により原価率が当初の予想に対して上昇する見込みとなったことから、売上総利益の減少が予想され、営業利益は182億円（4億円減）、経常利益は188億円（4億円減）、当期純利益は124億円（3億円減）に修正いたしました。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,370	34,902
受取手形及び売掛金	46,555	35,547
有価証券	11,667	12,664
商品及び製品	11,405	12,732
仕掛品	837	1,005
原材料及び貯蔵品	7,694	8,374
繰延税金資産	2,773	2,704
その他	6,013	3,782
貸倒引当金	△53	△47
流動資産合計	108,265	111,665
固定資産		
有形固定資産	18,209	17,864
無形固定資産		
のれん	64	—
その他	852	1,017
無形固定資産合計	916	1,017
投資その他の資産		
投資有価証券	24,552	22,642
繰延税金資産	1,438	1,422
その他	1,710	1,343
貸倒引当金	△123	△115
投資その他の資産合計	27,577	25,292
固定資産合計	46,702	44,174
資産合計	154,968	155,840

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,556	10,613
短期借入金	1,523	1,827
未払法人税等	3,356	1,840
賞与引当金	3,327	3,378
返品調整引当金	43	22
ポイント引当金	45	39
その他	6,044	5,670
流動負債合計	22,897	23,392
固定負債		
長期借入金	251	163
退職給付引当金	1,938	1,348
役員退職慰労引当金	33	13
その他	747	824
固定負債合計	2,970	2,349
負債合計	25,868	25,741
純資産の部		
株主資本		
資本金	700	700
資本剰余金	4,752	4,752
利益剰余金	121,856	123,265
自己株式	△323	△324
株主資本合計	126,985	128,393
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,293	1,767
為替換算調整勘定	△180	△61
その他の包括利益累計額合計	2,113	1,705
純資産合計	129,099	130,098
負債純資産合計	154,968	155,840

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	47,954	50,851
売上原価	18,093	19,097
売上総利益	29,860	31,754
販売費及び一般管理費	23,591	25,541
営業利益	6,269	6,213
営業外収益		
受取利息	60	26
受取配当金	107	121
受取賃貸料	134	131
持分法による投資利益	10	7
その他	87	51
営業外収益合計	401	337
営業外費用		
支払利息	31	6
為替差損	—	12
投資事業組合損失	28	—
その他	1	1
営業外費用合計	61	19
経常利益	6,609	6,531
特別利益		
固定資産売却益	2	172
投資有価証券売却益	10	64
特別利益合計	12	237
特別損失		
固定資産除売却損	15	165
投資有価証券評価損	—	18
特別損失合計	15	184
税金等調整前四半期純利益	6,606	6,584
法人税、住民税及び事業税	2,157	1,810
法人税等調整額	153	376
法人税等合計	2,311	2,187
少数株主損益調整前四半期純利益	4,295	4,397
四半期純利益	4,295	4,397

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	4,295	4,397
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	305	△526
為替換算調整勘定	12	118
持分法適用会社に対する持分相当額	3	△0
その他の包括利益合計	322	△408
四半期包括利益	4,618	3,989
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,618	3,989
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,606	6,584
減価償却費	1,119	1,460
受取利息及び受取配当金	△168	△147
支払利息	31	6
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	18
売上債権の増減額 (△は増加)	8,920	11,015
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,195	△2,174
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,678	2,056
その他	△1,558	680
小計	15,433	19,499
利息及び配当金の受取額	183	166
利息の支払額	△14	△6
法人税等の支払額	△2,090	△3,327
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,511	16,332
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△3,197	△4,297
有価証券の売却及び償還による収入	3,400	3,000
有形固定資産の取得による支出	△1,133	△975
有形固定資産の売却による収入	2	400
無形固定資産の取得による支出	△40	△298
投資有価証券の取得による支出	△1,799	△2,466
投資有価証券の売却及び償還による収入	1,888	3,908
その他	△229	569
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,109	△159
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△935	400
長期借入金の返済による支出	△233	△184
配当金の支払額	△2,609	△2,986
その他	△33	△56
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,811	△2,827
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	97
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	8,594	13,442
現金及び現金同等物の期首残高	23,210	22,543
現金及び現金同等物の四半期末残高	31,804	35,985

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	医薬品事業	ヘルスケア 事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	47,034	920	47,954	—	47,954
セグメント間の内部売上高又は 振替高	20	0	20	△20	—
計	47,054	920	47,975	△20	47,954
セグメント利益又は損失(△)	6,336	△141	6,194	74	6,269

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額74百万円は、セグメント間取引消去等によるものです。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	医薬品事業	ヘルスケア 事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	50,040	810	50,851	—	50,851
セグメント間の内部売上高又は 振替高	27	26	54	△54	—
計	50,068	837	50,906	△54	50,851
セグメント利益	5,868	106	5,975	238	6,213

(注)1. セグメント利益の調整額238百万円は、セグメント間取引消去等によるものです。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。